

Genius English Readings Revised

身近にある「異文化」を考える

伊東さゆり



『大辞林』によると、「異文化」とは、「価値観や言語、習慣や行動様式など、自分が親しんでいる文化とは規範、営みの異なる文化」とある。英語の教科書においても、多くの国や地域の暮らし・文化が紹介されている。しかし、少し拡大解釈して「自分が親しんでいる生活様式とは異なった文化」と考えれば、「異文化」が海の外の文化だけを意味するのではなく、もっと身近に存在していることに気づく。その一例が *Genius English Readings Revised* の Lesson 3 “Let’s Be Proud” である。障害を持つ人々の社会的自立を目指した NPO を主宰する竹中ナミ氏の活動が紹介されている。

多くの生徒にとって、障害者の生活を知る機会には乏しく、竹中氏の生き方、考え方を読むことは「異文化」との出会い、と考えても良いのかもしれない。このレッスンは改訂前の旧版にも掲載されており、これまで前任校の千葉女子高等学校での授業で様々な活動を展開することができた。そのうちの3点を、実際に使用したワークシートの例とともに紹介する。

■ Picture Description

テキストを読ませる前に、Warm upとして、写真から得られる情報を述べさせる。このレッスンには4枚の写真が用意されているので、4名一組のグループ活動が可能である。ワークシート例①を参照（ページ、行番号は *Genius English Readings Revised* による。以下同様）。

この活動を通して、生徒は未知なる世界（＝

【ワークシート例①】（Lesson 3 導入時）

(1) Picture Description

① Look at the pictures on pages 30, 31, 32, and 35. Choose one and give as much information as possible.

(Key expressions only!)

② Tell your group about the picture you’ve chosen. While listening, you have to keep your textbook closed.

「異文化」への扉を開く。自分が担当する写真以外は写真を見ず、グループのメンバーが説明する情報を聞いてレッスンの主題をつかみ始める（「障害者の話らしいね。」。これがテキストを読む興味・関心につながっていく（「何が書いてあるのだろうか？」「自分が説明した写真とテキストの関係は？」）。

■ Reading in Detail

ワークシートには、読んだことに対する理解を深めるために、自分の考えを表現する活動を常に設けている。Section 1 においては、次の活動をペア、またはグループで展開することができる。次ページにワークシート例②を挙げる（下線部は教科書からの抜粋部分。以下同様）。

日本語における障害者を表す表現と、その背景にある態度を話し合わせる活動。生徒は、日本語には positive な語がほとんどないことを確認することにより、竹中氏が日本語にある語ではなく、“challenged” という語と “its positive way of thinking” を英語から「輸入」して使うように

【ワークシート例②】(Section 1)

(2) Reading in Detail
p. 31 ll.5-7
The word “challenged” was coined in the United States to refer to people with disabilities. I imported the term “challenged” as well as its positive way of thinking.
→ What words do we have in Japanese for people with disabilities? What attitudes do you think the words show toward them?

Japanese words for the disabled	Attitudes toward them
①	①
②	②

なった理由や心情を理解し、自分の考えを発表する活動に発展させていくことができた。

■Group Discussion

これまで読んできた内容を理解した上で、社会的側面から自分のアイディアを提示する必要がある活動。右上にワークシート例③を挙げる。

(1)において、障害を持つ人々が暮らしやすい社会の条件を考えさせる。(2)においては、できるだけ多くのアイディアを提示させる。

生徒は自分が実際にできること、社会に働きかけたいことを次々と発言し、互いに良い点や問題点を指摘し合うこともできた。

また、次の2点を述べていたグループが多かったことは特徴的である。

- ① If something is made user-friendly for the challenged, then it will be easier for everybody.
② Every challenged person is a member of our society. We have to know, understand and help each other.

Group Discussionの結果、「障害を持つ人々と私達は同じ社会を生きる仲間である。彼らにとっての問題は私達の問題でもあるのだから、互いを知り、協力してより良い社会にしていこう。」と

【ワークシート例③】(Section 2 終了時)

p. 33 ll.3-5
In the United States, many physically-challenged people participate in society, support themselves economically, and maintain their self-esteem.

●Group Discussion
Topic: What could we do to make Japanese society a better place for the challenged to live in?

(1) Preparation:
Think about the situation in Japan. What do you think should be provided to help the challenged? Give as many examples as possible.

Where	What we could do
At work	(e.g.)introduce new technology
At school	
At home	

(2) Share the above ideas with your group.

いう結論に達した。障害を持つ人々と共に生きる意識の高まりを感じた discussion であった。

* * *

■“Let’s Be Proud” から広がった学び

このレッスンの指導中に、嬉しい驚きがあった。竹中氏が主宰する NPO の Prop Station に授業での取り組みをお知らせし、竹中氏から直接メールを頂戴した生徒がいたことである。授業での活動や取り組みを応援してくださった竹中氏からのメッセージを、学年全体の生徒が学習をする上で、また、教員が指導をする上で大きな励みにさせていただいたことを、この場をお借りして感謝申し上げたい。教員には思いもつかない生徒の勇気と行動力に脱帽し、自立・自律した学習の意味を再確認した次第である。未知なる世界に関心を持ち、テキストを読んで情報を吸収し、共生のための意見交換を積極的に行う生徒の中に、「異文化理解」のプロセスを実感したレッスンであった。

(いとう さゆり・千葉市立千葉高等学校教諭)